

自治体職員の立場から見た 双葉郡や大熊町の現状等について

福島県大熊町

平成28年4月

大熊町の概要

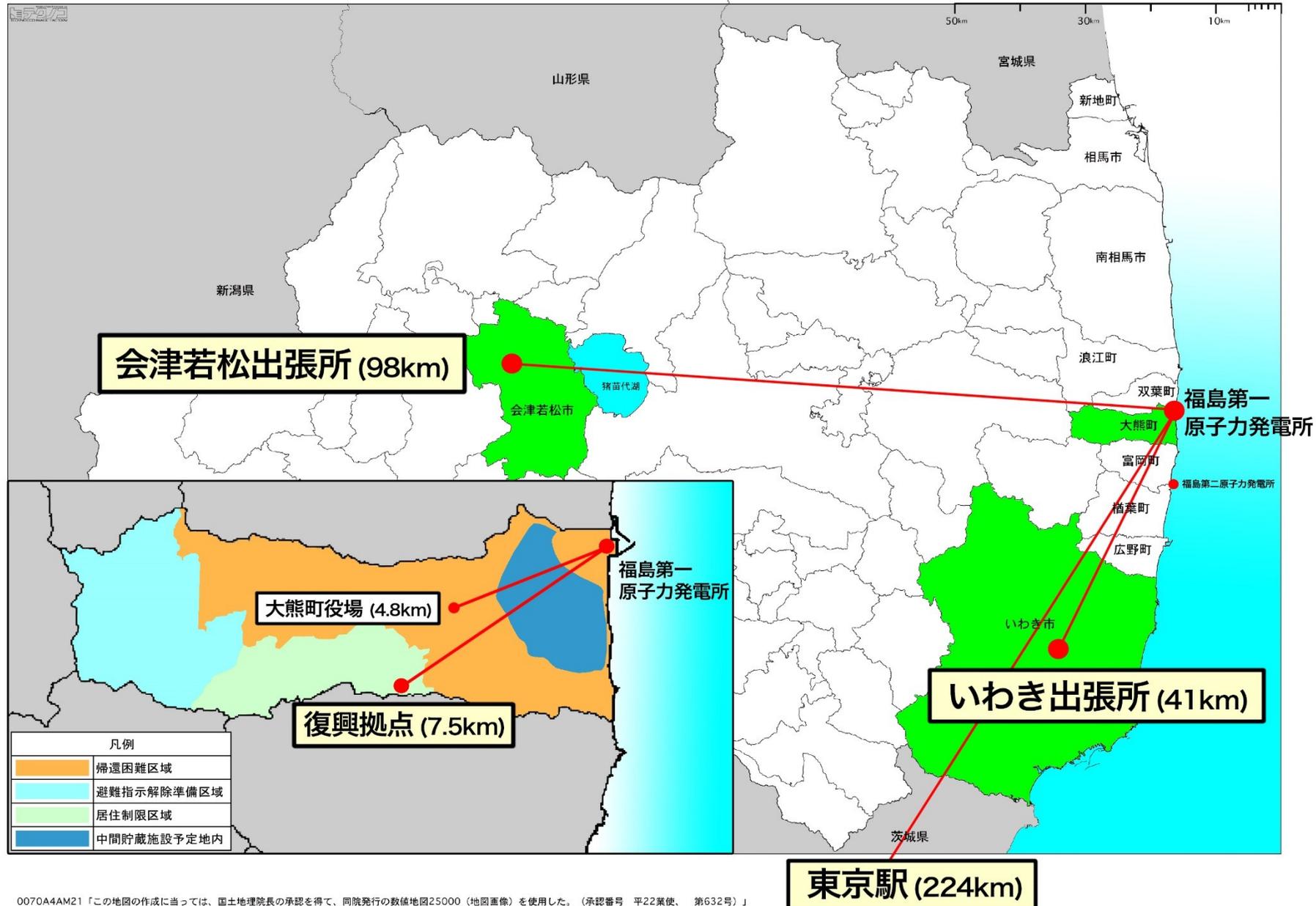
■福島県浜通りの中央に位置し、人口11,505人(平成23年3月11日時点)、面積78.7 Km²(※山手線の内側:63Km²)を有する町。

■果樹(梨、キウイ)や、梨やキウイを原料としたワイン、養殖のヒラメが名産。

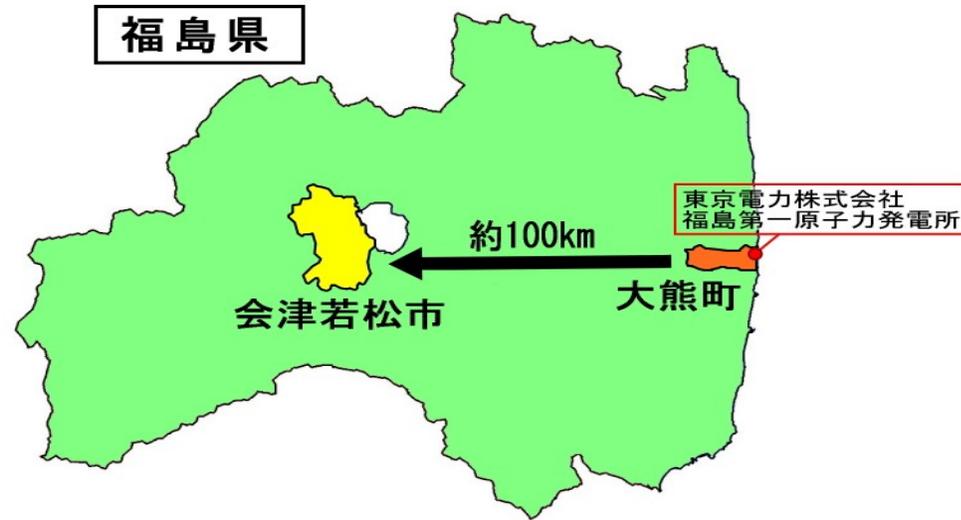
■国、福島県の主導により、東京電力福島第一原子力発電所を誘致。1～4号機が立地。1号機が1971年3月に運転開始。



大熊町の位置



避難状況①



■避難先: ①いわき市4,494人、②会津若松市1,388人、

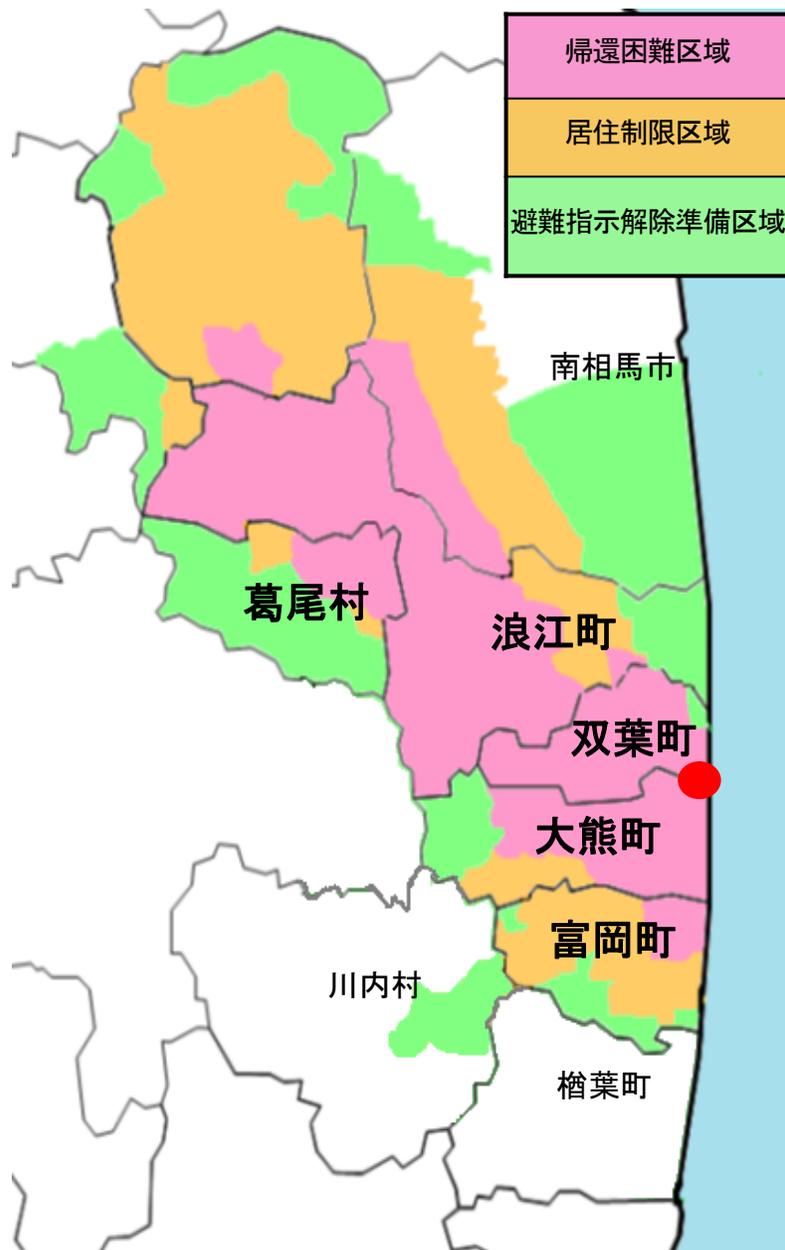
③郡山市1,036人

◇県内 8,161人 ◇県外 2,575人

■仮設住宅等: 仮設住宅 979人、復興公営住宅 215人

■学校機能: 幼稚園12人、小学校68人、中学校42人

避難状況②

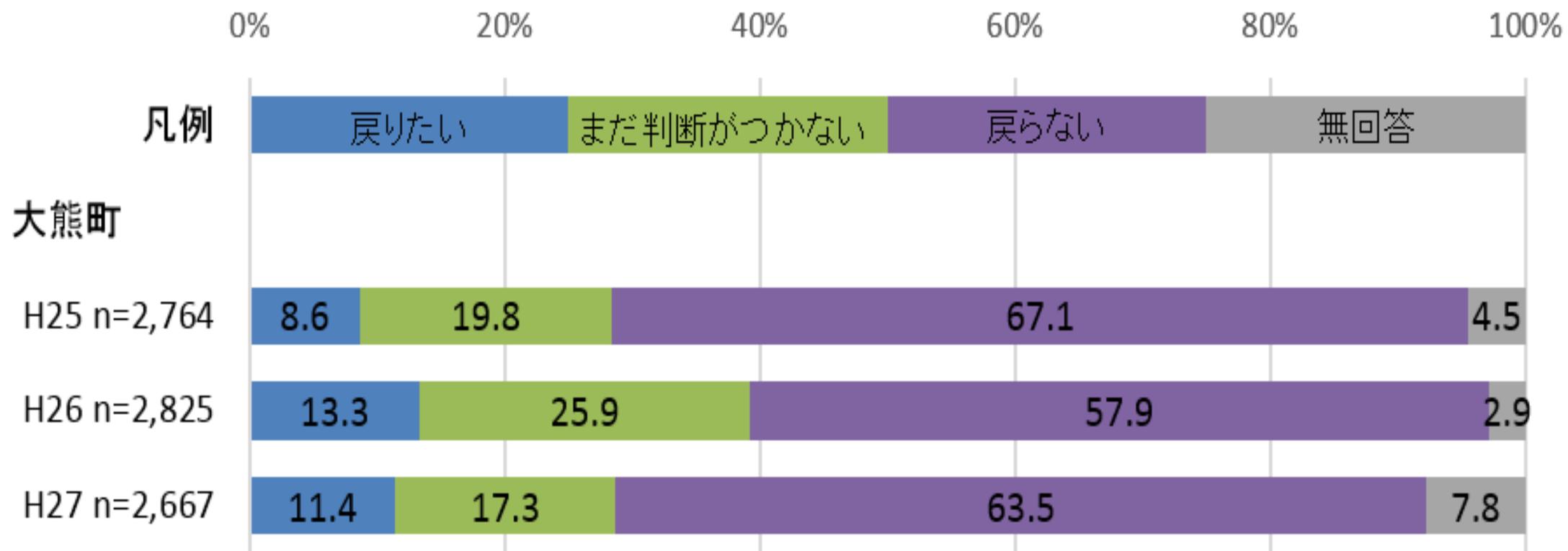


町村 避難者数	役場本所	避難先① 人数	避難先② 人数	避難先③ 人数
葛尾村 1,473人	三春町	三春町 803人(55%)	郡山市 273人(19%)	田村市 150人(10%)
浪江町 21,031人		福島市 3,450人(16%)	いわき市 2,739人(13%)	二本松市 2,188人(10%)
双葉町 6,969人	いわき市	いわき市 2,052人(29%)	郡山市 728人(10%)	福島市 316人(5%)
富岡町 15,132人		いわき市 6,003人(40%)	郡山市 2,779人(18%)	福島市 393人(3%)

※数値については、概ね平成28年2月現在。

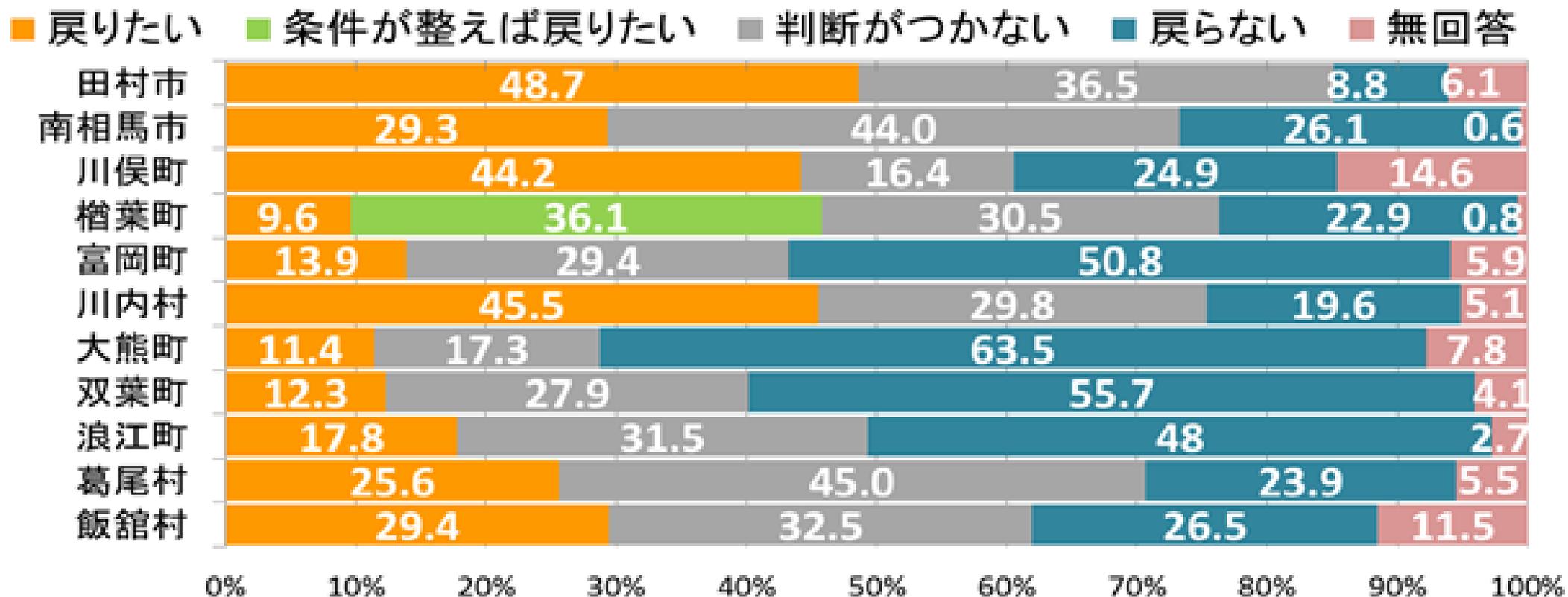
住民意向調査①

〈帰還意向〉 大熊町



住民意向調査②

〈帰還意向〉 避難指示区域等



※調査年度 H27年度(田村市、川俣町、浪江町、大熊町、富岡町)
H26年度(飯館村、川内村、双葉町、檜葉町)
H25年度(南相馬市、葛尾村)

双葉郡等における主要施設等の状況①



南相馬市

- 浜地域農業再生研究センター
- 環境創造センター

浪江町・双葉町

- 復興祈念公園

(双葉町・大熊町)

- 中間貯蔵施設

大熊町

- 大熊分析・研究センター
{福島第一原子力発電所校内}

富岡町

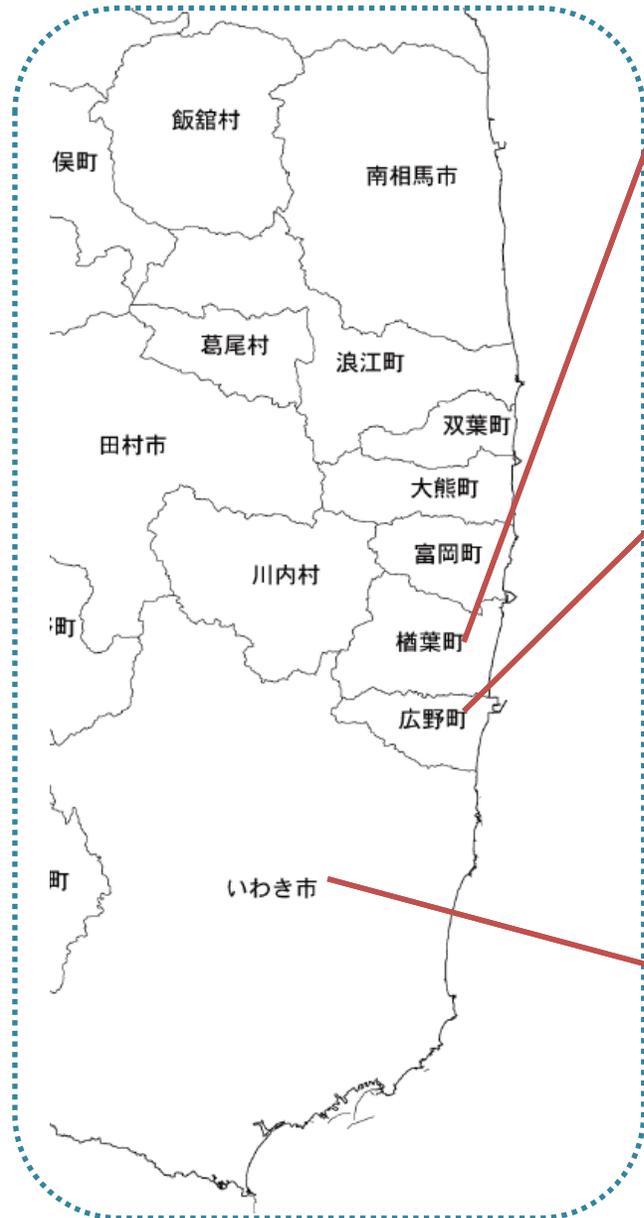
- 廃炉国際共同研究センター
「国際共同研究棟」

川内村

- 川内高原農産物栽培工場



双葉郡等における主要施設等の状況②



楡葉町

- 楡葉遠隔技術開発センター(モックアップ施設)
- 福島県立大野病院附属ふたば復興診療所



(楡葉町・広野町)

- Jヴィレッジ



広野町

- 福島県立ふたば未来学園高等学校



(広野町・いわき市)

- 最新石炭火力発電所



いわき市

- 小名浜港の機能強化(平成29年一部開始目標)
- 小名浜太陽光プロジェクト
- いわき市新病院建設事業(平成33年3月まで(予定))

復興計画

＜大熊町第二次復興計画の考え方＞

1. 今後10年程度の計画
2. 「避難先での安定した生活」と
「帰町できる環境づくり」
3. 「震災発生時に大熊町民であった
全ての人及び事業者」が対象

復興拠点

大熊町復興拠点(大川原地区) 整備イメージ図

■戸建住宅ゾーン

ゆとりと自然が感じられる
個性豊かな住環境空間
(生活者のオーダーにも対応)



■暮らし・賑わい拠点

ゆとりと利便性が共存する行政
サービス・生活利便機能の集積空間



■コミュニティ軸
地区内及び周辺集落
とをネットワークし、
コミュニティ醸成に
寄与する生活導線

■景観軸

自然、歴史、文化を感じる
地域のシンボルとなる歩行者
空間



■集合住宅ゾーン

豊かなコミュニティと都市的
利便性を備える住環境空間



■産業・研究・業務施設ゾーン

豊かな自然環境と共生した
産業・研究・業務施設空間



復興に向けた課題①

直面している課題

- 生活環境の保証
- コミュニティの維持
- 風評被害
- 時間軸の設定の難しさ



復興に向けた課題②

長期的な課題

■ 除染の推進

■ 中間貯蔵施設

■ 廃炉作業

■ 空間放射線量



ご清聴ありがとうございました。

